

音楽のおくりもの Information

# Spire\_M

小学校版  
通巻第26号

contents

p.2 諸外国の音楽を扱った授業のアイデア  
宮城教育大学 降矢 美彌子

p.8 和楽器を使う授業のコーディネート  
作曲家 眼龍 義治

p.12 風鈴の音をたずねて



# 諸外国の音楽を扱った授業のアイデア

宮城教育大学名誉教授 降矢 美彌子

## ●はじめに

### 1) 「諸外国の音楽」を学ぶ前提について

音楽の教科書を見てみますと、小学校4年生では「おはやしや民ようを楽しもう」、5年生では「わたしたちの国の民ようや子もりうたに親しもう」という課題が出てきます。日本の音楽というと、箏や三味線などと思いがちですが、これらは大陸から伝わったもので、お囃子や民謡、民俗芸能が私たち日本人にとって最も基本的な音楽文化なのです。近年では、お母さんが子守唄を歌って子どもをあやすことも少なくなり、子どもがわらべうたを歌って遊ぶことも、地域のお祭りに参加することも少なくなりました。つまり、子どもが日本人の最も基本的な音楽文化を十分に身につけることなく育っていくことが当たり前になっています。自分の国の基本的な音楽を身につけるということを別の言葉に置き換えると、アイデンティティを身につけるということです。「諸外国の音楽」を扱う基本は、まずは自分の音楽文化をしっかりと身につける、アイデンティティを身につけることから始まります。ここを踏まえて「諸民族の音楽」に進みたいと思います。

### 2) 「諸外国の音楽」とは？

「諸外国の音楽」とは、どういう音楽のことを言うのでしょうか。世界の多くの国では、1つの国にたくさん民族が住んでいて、それぞれ違った言語を話し、違った宗教や文化をもって暮らしています。つまり、多くの国は多民族国家なので、1つの国の中にいろいろな「諸民族の音楽」があるのです。日本にもアイヌ民族、沖縄、朝鮮、近年では、ブラジルや南米、アジア諸国、アラブ諸国の方々など様々な民族が暮らしています。ですから日本の中にもいろいろな「諸民族の音楽」があるのです。

音楽は「世界言語」などと言われることもありますが、言葉が違うようにそれぞれの民族は違った音楽文化をもっています。ですから「諸外国の音楽」とは、私たちと違った言葉や暮らしをもった人々の音楽という意味で、私たちにとって「異文化」ととらえることができます。「諸民族の音楽」を扱うということは、「異文化学習」ということなのです。西洋音楽も1つの音楽だけではなく、ヨーロッパにも多くの民族が暮らしているので、いろいろな音楽文化、つまりいろいろな「諸民族の音楽」があるのです。

「諸外国の音楽」、つまり「異文化音楽」を扱う場合に最も大切なことは、その音楽が学ばれ、伝承されてきた方法を守ることです。音楽文化の伝承方法にも文学と同じように、文字や記号を用いて記録する伝承方法と、記録を用いない口頭伝承があります。「諸外国の音楽」も西洋音楽で用いる五線譜のように記録して伝える音楽と、耳から聴いてまるごと真似をして覚える口頭伝承の音楽とがあります。時々、西洋音楽以外の口頭伝承されてきた音楽を、西洋音楽の伝承法である五線譜に書き換えたり、日本語に置き換えたりして教えてしまうことがありますが、これは良くない教え方です。

以上のことを踏まえて、「諸外国の音楽」を扱った授業のアイデアのお話に進みましょう。

## 1. 日本の音楽を身につけましょう — わらべうた遊びや「はやしことばメドレー」から

日本の音楽を身につけるということは、私たちが日本語を身につけることと同じことで、「自分の音楽」のアイデンティティをもつということの意味しており、とても大切な出発点です。日本には各地に伝えられた「わらべうた」がたくさんあります。「わらべうた」の豊富さは、日本の音楽文化の特徴の1つと言えるでしょう。教科書に載っている「かごめかごめ」のような全国的に統一された「わらべうた」ではなく、地域に伝承された「わらべうた」を、是非地域の方から学んで遊んでいただきたいと思いません。このことが地域の伝統文化の継承なのです。

「わらべうた」遊びでは、心臓の鼓動＝拍を刻みながら、歌い動作をすることを同時に行います。近年、この拍を刻みながら、聴く、歌う、動作することの統合で、子どもの頭脳の発達を促すという研究成果も明らかになっています。「わらべうた」は、子ども同士のコミュニケーションを基本にしますし、遊びの中に社会性やルールを守ることが含まれていますから、子どもの人間性の発達に大変有効な教材です。次に「民ようのはやしことばで遊ぼう」という課題を取り上げてみましょう。民謡だけでなく、日本の民俗芸能や伝統楽器には多くの「はやしことば」があります。この「はやしことば」の豊富さも日本の伝統音楽の特徴です。作曲家の間宮芳生は、1958年から代表作「はやしことば」による『合唱のためのコンポジション』を1番から18番まで作曲しています。是非お聴きいただきたいと思えます。日本の伝統的な「はやしことば」の豊かさに驚かれることでしょう。

教科書には、7種類の「はやしことば」を用いた「はやしことばメドレー」が載っています。「はやしことば」は、掛け声ですから恥ずかしがったりせずに、身体を使った動作も入れてお腹から力いっばい言わせることが大切です。この作品に取り組んだら、次にオーストリアのカール・オルフ（1895-1982）の「言葉による即興演奏」の方法を取り入れてみましょう。まず、子どもたちと「はやしことば」探しをして、見つけた「はやしことば」を模倣や応答（コール・アンド・レスポンス）などの方法で、「はやしことば」による即興演奏を行うと素晴らしい体験になります。

また、唱歌（しょうが。太鼓などのリズムを言葉にして覚える方法）で小太鼓は「トッコトッコトッコトッコ」、大太鼓を「ドドーンドン」「ドドンガドン」などと唱えて、エアー演奏（ロックなどで実際の楽器を用いず動きだけで演奏する）で即興的に合わせる体験などをさせると、各地に伝わる「おち合わせ太鼓」などの太鼓による音楽への素晴らしい導入になります。民俗芸能は、秋田の東北三大祭の「竿燈」のように、子どもたちにもしっかり受け継がれている芸能もありますが、伝承者がいなくなって消えつつある地域も多いのです。民俗芸能は、日本の音楽にとって大切です。もし、地域で民俗芸能を受け継いでいるようでしたら、子どもたちと一緒にフィールドワークしてみてください。教室に伝承者をお招きして教えていただくことができれば最高です。

## 2. バリ島の「ケチャ」－総合芸術音楽舞踊劇

私の40年を超える音楽教育の体験の中で、日本の子どもたちに一番に取り上げていただきたいと考える「諸外国の音楽」は、インドネシア・バリ島の「ケチャ」です。バリ人は、「ケチャ」のことを「チャッ」と呼びますが、ここでは一般的な「ケチャ」とします。私は、芸能山城組が1974年に世界で初めて「ケチャ」の上演に成功した後、東京の小学校で「ケチャ」の実践を行いました。その時の子どもたちの大きな喜びや成長の記録を是非お読みいただきたいと思えます。（降矢：1978）

「ケチャ」を取り上げたい理由は、日本人が普段体験しない音楽体験のほぼ全てが含まれている「異

文化」だと思っからです。バリ島では、ケチャの合唱は男性によって演じられます。日本の小学校では男女でやってよと思っます。バリ島の芸能は、ガムランも男性が行っていましたが、近年女性も行うようになってきました。

「ケチャ」の音楽的な特徴をまとめると以下の3点になります。1. 音楽が舞踊や劇と一体となって存在する神への捧げ物で、トランス状態になる人もいる。2. 物事が2つの側面から成り立っているという二元論できている。3. 様々な仕掛けによるコミュニケーションによってできあがっている。



「ケチャ」のパターンは、紙に書かず口頭伝承で耳から聴いてまるごと覚えるようにします。インターネットの検索で降矢美彌子研究室 (<http://furiya-music-material.miyakyo-u.ac.jp/>) を開くと、左側の「多文化音楽教育のための教材提供」というインデックスに「バリ島の音楽文化」があります。ここには「ケチャ」の詳しい説明、バリ島の自然、バリ人の生活や宗教など文化全般や「ケチャ」の練習用モデルなど学習に必要な情報が載っています。ですからパターンなどを日本語で書いて覚える必要がなく、バリ人の映像を見ながら「ケチャ」の全てのパターンや周期、合わせ方、動きが学べます。小学校では「ケチャ」の全貌は学習できないので、楽しい本質的な「ケチャ」の体験を土台にして、バリ人の素晴らしい映像を鑑賞させていただきたいと思っます。

## 1) 「ケチャ」の練習の方法

### (1) 「チャッ」という叫び声の出し方

「ケチャ」は総合芸術ですが、子どもたちは「ケチャ」の合唱隊の部分を体験します。では、「ケチャ」の「チャッ」という声の出し方の練習をしましょう。「チャッ」という叫び声は猿の鳴き声ではありません。恥ずかしがらずに、お腹から非常に強い叫び声を出します。これは、場面によって「ジョッ」とか「タッ」と発音が変わります。パターンの学習は、バリ人の映像からまるごと真似ましょう。「ケチャ」のパターンは、集落によって様々で即興的に加えられて演じられていますが、入れ子の方法、すなわちコテカン（インターロッキング奏法）できているので、2組ずつ耳で聴いて唱えるようにします。これがバリ人のもつ二元論の考え方なのです。そして、パターンだけ次から次へと暗記させるのではなく、ガムランのゴングを模した「時の周期」（スイリリプンブンブン）という声に1つずつパターンを加えていくように学びます。いつも時の周期を聴きながら、パターンを覚え加えていくというやり方は、全ての音楽学習の基本である「聴く力」を育みます。

### (2) 周期と横揺れのリズム

「ケチャ」のリズムや拍子は日本人のものと全く違います。「ケチャ」は西洋の拍子でもなく、8拍周期で時がめぐる感覚です。リズムは日本的な縦揺れではなく、映像を見るとわかりますが、身体を横に揺らして回っていく感覚です。また、指揮者が全体をまとめるのではなく、互いに聴き合ってコミュニケーションをとって合わせます。「ケチャ」は西洋の合唱のソプラノ、アルトという隣り合っただ人が同じように歌う並び方ではなく、隣り合っただ人は自分と違っただパターンを唱えるという合唱で、違っただリズムを聴きながら自立して音楽に加わる必要があります。これは日本人には難しい感覚です。「チャッ」というパターンは、縦に首を振ることなく、8拍で身体が回るような横揺れ感覚で唱えます。これを、

あぐらをかいて円陣を組み、隣や後ろの人と顔を見合わせ、ニコニコ笑いながら会話のようにして違ったパターンを唱えるのです。これが「ケチャ」のもつコミュニケーションです。

### (3) 場面によって変化する動作

合唱隊は物語の進行に合わせて、パターンを合唱しながら手を前に出したり、上下、左右に振ったり、いろいろな動作をします。この演劇性も「ケチャ」の醍醐味です。「ケチャ」の学習では、パターンを唱えさせるだけでなく動作も体験することがとても大切です。全員で円陣を組みあぐらをかいて座り、衣装を着けて動作をしながら「ケチャ」の合唱をする所まで是非体験させたいものです。

## 2) 「ケチャ」の衣装

異文化音楽を学習する時は、現地の食べ物を食べたり、衣装などを身に着けたりすることが有効です。衣装は白と黒の四角模様の布の腰巻で、耳の後ろに赤と白の花をさします。これを身に着けるだけでも「異文化」を体験する気持ちが深まります。白は清浄、黒は悪や汚れ、その2つを合わせて1つのものと考えるのが、バリ人の二元論です。白い布や柔らかい紙に白黒の模様を書いて腰巻を手作りすることもよいでしょう。

## 3. ア・カペラ合唱の世界へ

この章では、合唱の基本である伴奏を伴わないア・カペラ合唱指導へのアイデアについて述べます。

### 1) 北海道のアイヌ民族の「ウポポ」から西洋の合唱の耳を創る

アイヌ民族の音楽は、「諸外国の音楽」とは違うと感じられるかもしれませんが、「ウポポ」は日本国内にある唯一の「輪唱」です。アイヌ民族は、日本の先住民族で異なった音楽文化をもっています。子どもたちが日本の中にある「異文化」を学ぶことは、日本の音楽の豊富化に繋がります。「ウポポ」は楽しく、いろいろな「諸外国の音楽」に進んでいく導入にとっても効果的です。日本の伝統的な音楽はハーモニーのない単旋律で、5音階でできています。しかし、アイヌ民族の音楽は5音階ですが、多声性、つまり輪唱をもっています。5音階ですから、西洋の輪唱よりも容易く楽しく輪唱を味わうことができ、そこから7音階の西洋の輪唱（カノン、対位法）、多声性の音楽へと発展させることができるのです。



「ウポポ」は伝統的な女性の座り歌で、昔は5部輪唱くらいまでであったそうです。全員で「シントコ」（お祝いの時に使われる漆塗りの木製容器）を囲んで座り（シントコをおかない場合もある）、拍を打ちながら、「フチ」（歳をとった女性のリーダー）が歌い始めるのを聴いて追いかけて歌います。ウポポも音楽学習の基本である「聴く力」やコミュニケーション力を育みます。ご紹介した降矢のホームページ（<http://furiya-music-material.miyakyo-u.ac.jp/>）の「多文化音楽教材提供」のインデックスから「アイヌの音楽文化学習」を開くと、アイヌの伝承者が歌う「ウポポ」が聴きながら学べます。サイトにあるアイヌ民族の歴史や暮らしなども学習してください。日本の国にある多声性を学び、その後西洋やアジア、アフリカなどの多様な合唱の世界へと子どもたちの心を開いていきたいものです。

## 2) コダーイ作曲『黒鍵による24の小さなカノン』から豊かな合唱音楽の世界へ

アイヌ民族の「ウポポ」から直ぐに西洋の合唱音楽に進むのではなく、間にアジア系民族ハンガリーの作曲家コダーイ・ゾルターン（1882-1967）が作曲した『黒鍵による24の小さなカノン』を扱うと効果的です。というのもコダーイのこの二部輪唱は、5音階できているので、より容易く聴く力を高めながら歌うことができるからです。この教材は、本来はピアノの導入の教科書です。以下のように輪唱させます。

1小節遅れの輪唱で、最初のパートが楽譜を見ながらドレミと階名唱すると、もう1つのパートがそれを聴いて覚え、覚えたドレミを歌いながら最初のパートが次に続けて歌うミレドを聴きながら覚えて歌うという方法です。このように日本のアイヌ民族の輪唱、ハンガリーの『黒鍵による24の小さなカノン』、そして西洋の合唱音楽へと段階的に進んでいくと、伝統的に単旋律の音楽文化をもつ日本人が、ハーモニーや対位法をもつ西洋音楽を歌うのに無理がないと思います。この方法でTVの番組で一時期話題になった「ハモネプ」へと導くと、子どもたちは輪唱（ポリフォニー）とは違うホモフォニー（和声）の世界、ハーモニーの世界へと進むことができます。西洋音楽は、このポリフォニーとホモフォニーでできているので、この2つの合唱を学ぶことは大切です。「ハモネプ」は西洋のハーモニーの基本的な進行（「T-D（主和音—属和音）」）でできていて、さらにアメリカの「ゴスペルソング」へと発展させることができます。このようにして、単旋律の伝統をもつ日本人を合唱の世界の宝庫、西洋のルネサンス音楽などへと導くことができるのです。一方、大変美しいハーモニーをもつ「ブルガリアン・ヴォイス」と呼ばれるブルガリアの民謡発声による美しい合唱もあります。

最後に、発声には、西洋的な頭声発声と民謡などで用いられる胸声発声があること、歌を歌う場合には、その歌が歌われている発声で歌うことが大切であることをつけ加えたいと思います。世界の多様で豊かな合唱の魅力を子どもたちに伝えたいものです。それが「諸民族の音楽」を扱う目的なのです。

### ●おわりに

「諸外国の音楽」を扱う音楽教育を今日では、多文化音楽教育と言います。80年代に多民族国家アメリカに始まった音楽教育の理念です。それは、デパートのショーウィンドーのように多くの音楽を並べるのではなく、音楽をその背景とともに学び、音楽を伝承してきた民族への理解を深め、共生していくことを目指すことであり、音楽の学習を音楽文化学習と捉え、表現と鑑賞に加えて背景となる歴史や暮らしなどとともに学習することです。世界には様々な音楽文化＝「諸民族の音楽」があります。これを機会にさらに豊かな音楽の世界へと歩み始めていただきたいと思います。多文化音楽教育については『地球音楽の喜びをあなたへ』（降矢：2009）に、理念と指導法・授業へのアドバイスについて詳しく書きました。「諸外国の音楽を扱った授業のアイデア」をたくさん手に入れることができるでしょう。

### ◆ 参考文献

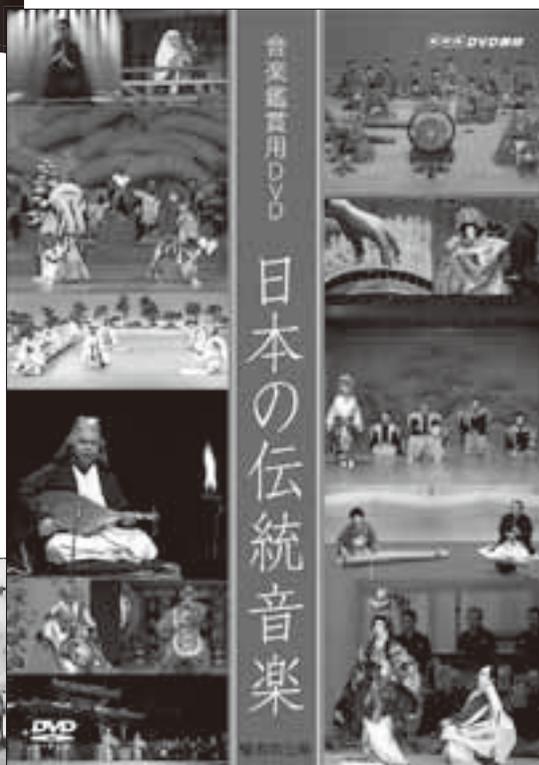
- 降矢 美彌子「子どもを変える民族音楽—「ケチャ」の場合—」音楽之友社『季刊音楽教育研究』15号  
降矢 美彌子『地球音楽の喜びをあなたへ—未来の地球市民となる子どもたちのための多文化音楽教育—』現代図書  
宮崎 幸次『新装版・カール・オルフの音楽教育—楽しみはアンサンブルから』版元ドットコム  
コダーイ・ゾルターン『黒鍵による24の小さなカノン』全音ピアノピース 全音楽譜出版

音楽鑑賞用DVD

## 日本の伝統音楽

● 主な収録曲 ●

能「俊寛」  
人形浄瑠璃「平家女護島」  
歌舞伎「平家女護島」  
長唄「京鹿子娘道成寺」  
平曲「那須与一」  
歌舞伎「連獅子」  
人形浄瑠璃（文楽）「国性爺合戦」  
江差追分  
谷茶前 など約30コンテンツ収録



## 世界の諸民族の音楽

● 主な収録曲 ●

ゴスペル（アメリカ）  
ホーミー（モンゴル）  
ヨーデル（スイス）  
バグパイプ（イギリス・スコットランド地方）  
グリオの語りと音楽（西アフリカ）  
タブラー・シタール（インド）  
バラライカ（ロシア）  
アルフー（中国）  
カヤグム（朝鮮半島）  
ケチャ（インドネシア・バリ島）  
ガムラン（インドネシア・バリ島）  
イヌイトの喉遊び歌（カナダ・アラスカ等）  
仮面劇「コーン」（タイ） など約40コンテンツ収録

各収録時間 約70分  
各本体 15,000円+税

制作 NHKエンタープライズ

発売 教育出版



## 三味線

### はじめに

三味線は魅力いっぱいの不思議な楽器です。日本人の美的感性に合うよう改良を重ねられ、噪音を大切に感じる感性がサワリを生みました。これはワビ・サビに通じる我が国独特の美的感性でしょう。西洋の楽器が楽音のみを追求して改良されたのとは大きな違いです。

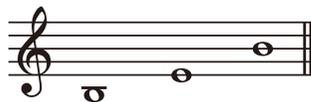
ジャンルの違い、流派の違いで音楽表現が異なり、細棹・中棹・太棹等が工夫されました。胴や駒の作りも異なり、弦の太さも異なります。更に撥は材質・型・大きさ・厚さ・重さが異なります。普通、教育現場で用いるのは細棹・長唄撥・ナイロン弦が多いようです。

三味線と三弦の違いについて質問されることがありますが、全く同じ楽器です。16世紀半ば琉球の三線が堺の港に入ったのが最初とされています。三～四十年間で日本人の感性に合うよう改良されました。当初は三絃と言っていましたが、後に三味線と言うようになりました。今日では箏曲のジャンルのみが三絃と言い、更に流派によっては三弦と言うようになりました。現在伝統音楽の殆んどのジャンルで使われており、正に我が国の代表的な民俗楽器と言えらると思います。

### 調弦法について

絶対音高を表す楽器ではないので、どのような調弦法も可能ですが、五線譜を用いて説明する場合は下記の方法がよいと思います。

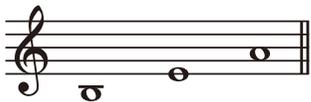
#### 1. 本調子



#### 2. 二上り調子



#### 3. 三下り調子



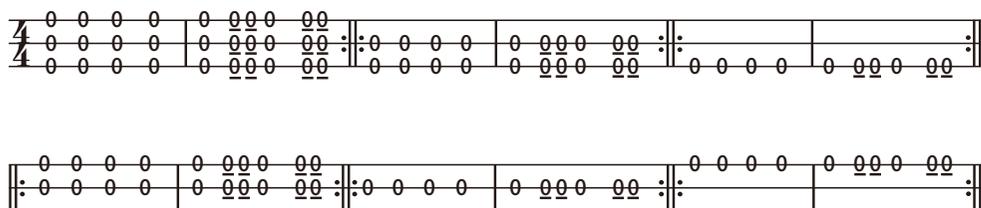
演奏する曲により使い分けます。ついでに申しますと本調子を原調（仮にC dur）とすると二上り調子は属調（G dur）となり、三下り調子は下屬調（F dur）となります。二上りはF#があるのでおわかりでしょう。本調子で下屬調を弾くとB♭が大変難しいツボになりますが、三下りですと三の弦の1のツボとなり簡単に弾くことができます。古典曲中の転調も殆んどこの原理で行われています。なお、一の弦はa～ė音位の音域が可能です。洋楽の弦楽器ではあり得ないことです。このことも三味線の魅力の一つと思います。

### 開放弦を弾く（本調子）

三味線は左手でツボを押さえ、自分で音を作らなくてはなりません。このことは非常に大切なテクニックですが、正しく撥を動かし、正確な発音を行うテクニックも極めて大切です。そこで先ず、開放弦のみによる撥さばきの練習を実施します。

三味線の胴を右太腿と右腕ではさみ、固定します。左手は棹にそえるだけで、棹を支えてはいけません。左手を離しても楽器が安定するよう、しっかり固定して下さい。

撥先は必ず撥皮に当たるようにし、撥先の平面が弦と直角になるようにします。手首を柔らかくし、スナップをきかせる感覚で弾きます。弦を弾いた撥は必ず撥皮を打ちます。三味線は弦楽器ですが、同時に撥皮を打って打楽器的效果も発揮する訳です。なお、くれぐれも力で押さえつける弾き方はしないことです。



最初は三本の弦を同時に弾き、2小節ごとに繰り返します。次に一弦と二弦を同時に弾いて繰り返し、最後は一弦のみを繰り返します。二弦の練習も最初は二弦と三弦を同時に弾き、次に二弦のみの練習へと進みます。ここまでを十分に練習すると三弦のみの練習は比較的易しく可能になります。以上の方法で練習し、更に最初に戻って練習を重ねて下さい。二弦のみの奏法は特によく練習して下さい。くれぐれも視線は正面（楽譜）に向け、撥先や弦を見ないことが極めて重要です。右手の手首を柔らかくし、三本の弦を感じ分けられることが大切です。三味線は撥さばきが極めて大切な楽器であることを忘れないで下さい。



## 「さくらさくら」を弾く(三下り調子)

最初から一本の弦で旋律を弾くと、どうしても視線が撥先を見てしまいます。そこで、前記の練習方法を活用し、二本の弦を同時に弾く方法で導入します。

1～2小節目は二本の弦を同時に弾き、特に3拍目は三本同時に弾くと易しく弾けます。3～4小節目は1のツボと2のツボの左手人差し指の感覚を意識して練習します。つい左手のツボを見そうになりますが、正面を向き、音（耳）で確認するよう心がけて下さい。3小節目の3のツボは中指（Ⅱ）で弾きます。このとき2のツボに置いた人差し指を離さないことが大切です。5～6小節目は1のツボのみですから比較的簡単です。4・6・9小節目は八分音符のリズムを弾きながら弦の移動になりますが、直前に0があるのでそれほど難しくはありません。

以上の方法で二本の弦を同時に弾くので比較的易しく弾けます。しかも低音が伴奏の働きをするので楽しく練習できます。ある程度習熟すると高音と低音の力を加減し、旋律線を浮き上がらせることもできます。旋律を心で歌いながら演奏すると自然に旋律が引き立ちます。

撥さばきに習熟したらいよいよ一本の弦で単旋律を演奏します。このときも視線は常に正面です。くれぐれも左手のツボを見たり、撥先を見たりしないことが肝要です。



## おわりに

初心者はどうしても左手のツボを見たり、撥先と弦を見たりしたくなりますが、絶対に見ないように十二分に気をつけて下さい。あくまでも耳で確認し、右手の手首の感覚を磨くことが肝要です。

ところで三味線はどうして多くのジャンルで使われるようになったのでしょうか。あまり明確に説明した文献は見かけません。筆者が感じていることを少し述べてみようと思います。三味線以外の楽器の伝来の仕方を見ると、雅楽は国策事業として入ってきました。楽器のみならず演奏家も多数渡来しました。当初は大寺院（国営）の専有でした。後に宮中（貴族社会）に入り、更に大きな神社に入りました。いずれにしても特別の階層の人々以外は手にすることができませんでした。尺八は鎌倉時代、禅宗の法器として渡来し、これまた僧侶の専有となりました。

三味線は上記のような事情とは無縁で堺港にもたらされました。その上戦国の世で社会は騒然としており、どこからも拘束されないまま庶民の中に広まったものと思われます。そしてジャンルごとの音楽表現の違いに応える形で改良されました。三味線の呼称もいつから使われたかはっきりしないようです。面白いことに、織田信長が三味線の普及に関わったとも言われています。

日本人（庶民）の美的感性に合うよう、改良・工夫が重ねられ、江戸時代中期には現在の三味線と殆ど違いのない楽器になったと考えられています。この魅力あふれる楽器を是非日本中の生徒たちに体験してもらいたいものと願っています。

# 風鈴の音を たずねて

取材協力：篠原風鈴本舗





### 「リーンリーン」

風にゆられて涼しさを演出する夏の風物詩，風鈴。  
製作の現場をたずねてみると，  
風鈴は職人さんが伝承してきた技によって，  
一つ一つ手作りされていました。



## 江戸風鈴ができるまで

炉の中には<sup>るつぼ</sup>坩堝というつぼが埋め込んであり、その中にガラスが溶けています（炉の中の温度は1,320度前後）。そのガラスを「ともざお」と呼ばれるガラス棒に巻き取って膨らまします。

**ガ**ラスのタネを一円玉ぐらいの大きさに巻き取ったところ。この小さな玉を口玉といいます。後で切り離し、鳴り口にします。

**口**玉の上にもう一度、ガラスを巻いてきます。この部分が風鈴本体になります。

**本**体の部分を少し膨らまし、針金で穴をあけます（後で、糸を通す穴になります）。



**お**しまいに一息で膨らまします。この様に、型を使わず空中で膨らます方法を宙吹きと呼びます。篠原風鈴の風鈴は、すべてこの方法で作られています。➤



20分ぐらい経つと、冷めて触れるようになります。口玉の部分を切り落として完成です。



江戸風鈴は鳴り口の部分がギザギザです。コップのように滑らかにしてしまうと、滑って音がしないからです。



絵を書き入れ、鳴るように組み立てて、完成です。



完成!

## 見学情報

篠原風鈴本舗

〒133-0065 東京都江戸川区南篠崎町4丁目22-5

電話 03-3670-2512 都営新宿線瑞江駅より徒歩12分

見学や製作体験を行っています(7月~9月上旬の繁忙期以外)。

詳しくはホームページをご覧ください。<http://www.edofurin.com/>





第11回

まもなく締め切り!!

# 地球となかよしメッセージ

作品募集(2013年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。



応募者全員に  
参加賞が  
もらえるよ!



第10回入選作品

## 信友

運動会で私たち6年は、組体操をやりました。その中の2人技、「サボテン」は雨のせいでグラウンドがベチョベチョだったので、やりにくく失敗する人たちがたくさんいました。

私の場所もやりにくく、上の子が「もう落としていいよ。」と言ってくれましたが、小学校生活最後の運動会だったので、絶対成功させたくて、「大丈夫。まかせて!」と言うと、上の子は「分かった。」と言ってくれました。その言葉がとてうれしくてうれしくてたまりませんでした。まるで、「信じてる。」と言ってくださるようでした。

そのしゅん間、「サボテン」は成功しました。

**応募資格** 小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)

**応募期間** 2013年7月1日～9月30日  
詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。

**作品テーマ**

- ①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み
- ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること
- ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会  
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞  
\*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



教育出版

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10

小学音楽通信 Spire\_M [2013年 秋号] 2013年 8月 30日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局 発行: 教育出版株式会社 代表者: 小林一光

印刷: 大日本印刷株式会社 発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社** 〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F  
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所** 〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F  
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社** 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F  
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社** 〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F  
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社** 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F  
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社** 〒730-0051 広島市中区大手町 3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F  
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社** 〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F  
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社** 〒812-0007 福岡市博多区東比恵 2-11-30 クレセント東福岡 E 室  
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所** 〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F  
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411